

躍動感に満ちた

飛躍の年に

新年明けましておめでとうございます。

輝かしい平成23年の年明けを、ご家族お揃いでお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、旧年中は市行政運営に対しまして、深いご理解並びに温かいご支援とご協力を賜り、衷心より厚く御礼を申し上げます。

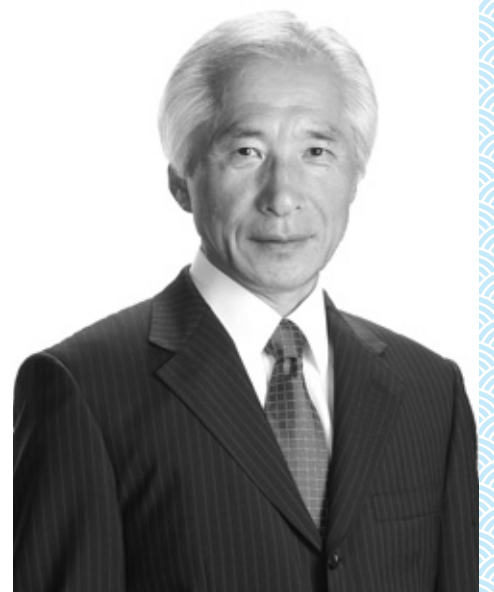
昨年は、マニフェストでお約束した「地域を守り、地域とともに生きるまちづくり」のスタートの年ということと、新市発足5年の実績を踏まえ更なる飛躍の年ということで「まちづくり元年」と位置づけ、その骨格となる市民協働のルールづくりや推進の仕組みづくりを進めてまいりました。

まず第一に、「市民憲章」と「まちづくり基本条例」の制定です。少子化や高齢化、人口減少が急速に進む地域社

会を、住みやすく活力のある地域としていくためには、市民と行政がともに考え、ともに働く取り組みが不可欠だと考えます。この憲章と条例によつて、協働のまちづくりの基本的な考え方やルールを明らかにすることができたと考えています。

第二として、これを具体化するため「地域自治協議会」の設立です。これは旧小学校区ごとに住民主体の協議会を作っていたが、これと市が力を合わせることで地域を住みよくしていくという施策ですが、すでに昨年は、2校区で組織が誕生しています。

平成22年は、こうした成果の上に、経済と人の活力の向上を緊急かつ最優先課題と位置づけ、観光（交流）人口150万人、人口3万人規模のまちづくりにつながる具体的な取り組みを進めていきたいと考えています。特に、



養父市長

広瀬 崇

平成23年度中には北近畿豊岡自動車道が八鹿まで開通し国木で国道9号に接続することを踏まえ、やぶ市観光協会や市内企業等と連携し、市内に点在する優れた観光資源を上手に結びつけ、多くの観光（交流）人を引きつける魅力的な地域づくりを進めます。また、子どもを産み、育てやすい環境づくりとして、学童保育の充実や医師不足の解消などに努力いたします。

平成22年は寅年です。「寅」は「動く」の意味で、春が来て草木が生ずる状態を表しているとされています。大地が息吹き芽吹くそのような躍動感に満ちた養父市の一年にしていきたいと考えています。

最後になりますが、皆様のご多幸を心から祈念申し上げます、新年のごあいさつとさせていただきます。



明るい元気な

養父市づくりを

養父市民の皆様、新年明けましておめでとございます。

皆様には、新しい希望と決意をもって輝かしい新春を迎えられましたこと、心からお慶びを申し上げます。

旧年中は、養父市議会の活動に深いご理解とご協力、また、温かいご指導を賜り厚く御礼を申し上げます。

昨年は、新しい議会のあり方を目指した議会基本条例調査特別委員会を設置し、地方主権の時代を迎え、議会や議員はどうあるべきかについて、各市民団体との意見交換会や参考人の皆様からのご意見、ご提言をいただいたところであります。

また、6月と11月には議会報告会を旧町単位で開催し、多くの市民の皆様のご参加をいただきました。

ここに、あらためまして市民の皆様方に敬意と感謝の意を表するものであ

ります。

これらのご意見を参考に、議会基本条例の制定に向けて鋭意努力を重ねて参ります。

さて、昨年9月には、鳩山新政権が誕生し、温室効果ガス25%削減等の環境政策をはじめ、「地域主権」の考え方のもと、各種の施策を打ち出しました。

また、政府の行政刷新会議の模様が連日テレビで放映され、国民の多くは事業仕分けを評価する一方、「国の支出を抑えて、地方にしわ寄せが来たら本末転倒」といった不満の声が聞かれています。但馬地域や養父市においても、行財政への影響が懸念されており、その対応が求められます。

私たちが暮らす地域社会は、教育、福祉、医療問題をはじめ、過疎化、少子高齢化、限界集落等、困難な問題が山積しておりますが、従来にも増して

環境を大切に作る循環型社会の構築など、重大な転換期を迎えていることは間違いありません。

平成22年は、厳しい政治経済状況ではありますがありますが、健全財政を基本に、南但ごみ処理施設整備、斎場建設など、市民生活に直結した大型事業が始動する予定です。

養父市議会といたしましては、このような中、市政に対する監視機能と議会報告会等を通して民意の把握に努め、施策に反映させる議会運営を心がけるとともに、明るい元気な養父市づくりに貢献する決意でありますので、市民の皆様方には、昨年に倍しましてご指導、ご鞭撻をお願いいたします。

養父市の益々の隆盛と、養父市民の皆様方のご健勝、ご多幸を祈念いたしまして年頭のあいさつとさせていただきます。



養父市議会議長
北尾行雄